令和３年度　第１回磐田市廃棄物減量化等推進審議会　会議録

【日　時】　令和３年７月 28 日（水）午前 10 時～午前 11 時 30 分

【会　場】　磐田市クリーンセンター ２階研修室

【出席者】　会　長　藤田　允
副会長　伊藤　よし子
委　員　玉田　文江　　寺田　ヒサ子
今泉　佳代　　宮地　浩
山本　壮志　　伊藤　慎弥
渡邉　カルロス　　根津　康広
鎌田　俊己　　鈴木　哲一
武藤　美恵
順不同（13 名出席）

【事務局】　環境水道部長、ごみ対策課長、ごみ対策課長補佐、
審議会担当職員２名

【会議概要】
１　開会
２　委嘱状交付
３　環境水道部長挨拶
４　議事
（１）磐田市一般廃棄物処理基本計画の改定方針について
（２）これまでの一般廃棄物処理状況について
（３）現基本計画の取組み状況について
（４）令和３年度の主な取組みについて
（５）その他報告事項
５　閉会

【意見・質疑の主な内容】

１　開会

〈事務局〉　皆様、こんにちは。磐田市ごみ対策課長の太田でございます。本日は、お忙しいなか、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、日ごろは当市のごみ減量施策の推進に、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

ただいまより、令和３年度第１回磐田市廃棄物減量化等推進審議会を開催いたします。

２　委嘱状交付

〈事務局〉　初めに、所属する団体の役員変更等の理由により、磐田市議会から根津康広さんを推薦いただきました。任期は、磐田市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例第 12 条第４項により、前任者の在任期間である令和４年６月 30 日までとなります。

３　環境水道部長挨拶

〈環境水道部長〉　皆様におかれましては、たいへんお忙しい中、当審議会へご出席いただき、ありがとうございます。

本市は、６月 14 日に市長がゼロカーボンシティ宣言をしました。ごみの減量や循環型社会の形成は、市民が取り組む第一歩となると考えます。

今年度は 10 年に１度の一般廃棄物処理基本計画の改正年度であります。この審議会で幅広い視点から多くのご意見をいただき、より良い計画にしていきたいと思います。

今年度もどうぞよろしくお願いします。

４　議事

（１）磐田市一般廃棄物処理基本計画の改定方針について
（２）これまでの一般廃棄物処理状況について
（３）現基本計画の取組み状況について
（４）令和３年度の主な取組みについて

≪（１）～（４）を事務局より一括して説明≫

〈会長〉　ただいまの説明につきまして、ご提案、ご意見等ありましたらお願いします。

〈委員〉　ごみ排出量や資源化率の目標を達成できなかった要因として、何が考えられるか教えて下さい。

〈事務局〉　近年のごみ排出量の増加については、令和２年度はコロナ禍の影響がありますが、中長期に家庭ごみが減少傾向にある中で、景気の動向による事業系ごみの増加が要因と推測されます。資源化率については、古紙のコンテナ等、民間の資源物回収拠点の整備が進んだことで、自治会や子ども会などの地域団体が実施する古紙等の集団資源回収量が減少傾向にあるため、減少していると推測されます。

〈委員〉　レジ袋だけで年間 120ｔ削減できたとのことですが、一方で年間のごみ排出量は増えています。その辺りの考えを伺います。

〈事務局〉　レジ袋の削減 120ｔは、市内スーパーのレジ袋辞退率を１ヶ月調査したものを年間にした場合に推計される数字として、ご理解いただければと思います。

ごみの排出量の増加については、家庭ごみ自体は中長期的には減少傾向にありますが、事業系ごみが増えてきていることが要因と考えています。

〈委員〉　１点目、ごみ排出量の増加の原因として事業系ごみの増加が指摘されていますが、市としての取組みを伺います。

２点目、民間の回収拠点が充実したことで、資源化率の推移が減少していることはよく分かりますが、民間の回収拠点の実態を検証していただきたいと思います。

３点目、令和３年度から本格的に取り組む磐田市クリーンセンターの焼却灰の資源化の取組みは、実際どの程度取り組むことができたのか、なぜできなかったのかお伺いします。

〈事務局〉　１点目です。事業系ごみについては事業者向けのごみの分け方・出し方のパンフレットを作成し、商工会議所さんにもご協力をいただき、市内の事業者に配付をしました。今後も力を入れて取り組んでいきたいと思います。

２点目です。市のホームページに掲載していますが、民間の回収拠点は市内約 30ヶ所把握しています。プラスチック製品やペットボトルやトレイ等も店頭回収をしていただければ、市民の利便性が

高まりますので、新たな協定に基づき是非進めていきたいと考えています。

３点目です。平成23年に建設したこのクリーンセンターは、灰を溶融して資源化する施設ですが、スラグの生成に多額な費用がかかる割には、需要が少ないという課題があります。そのため令和３年度から、民間資源化業者に全量の半分を委託し、資源化を進めていきます。令和７年には灰の全量を資源化することで、資源化率を向上させる予定です。

〈委員〉　事業系ごみが、事業系ごみと自己搬入の合計となっていますが、個人が持ち込むごみと業者が持ち込むごみとを計量の段階で分けられないのですか。

〈事務局〉　今のところは、そこまで細かく集計はしていませんが、今後、検討していきます。

〈委員〉　磐田市内に置いてある民間の資源回収コンテナの回収量を把握しその分を資源化率に含めるのは可能だと思います。

〈事務局〉　ごみの総排出量に影響が出てくると思われますので、慎重に検討したいと思います。

〈委員〉　環境省の一般廃棄物処理実態調査では、ごみ焼却施設からの発電量を集計していますので、新しい計画には、ごみ発電という項目を設定しながら、取り組んでいくとよいと思います。

〈事務局〉　現計画は環境省の作成指針を参考にしており、排出量、再生利用、最終処分の３つの目標値と一人一日あたりの排出量を設定しています。新たな計画の数値目標については、食品ロスの削減等の新たな視点を取り入れ、情報収集しながら検討をしていきます。

〈委員〉　ごみの総排出量の３分の１を生ごみが占めているので、生ごみ専用回収車を別に作る必要があると思います。

〈事務局〉　取り組んでいる他の自治体に聞いたところ、臭いや経費等の問題があると聞いており、課題は多いと考えています。

〈委員〉　以前視察に行った下水の最終処分場では、肥料工場があり、下水から異物を取り出し、そこから肥料にするということをしていました。生ごみもどこか１ヶ所に集めて、これを堆肥代わりにするのはどうでしょうか。

〈事務局〉　施設の整備や収集コストを考えると難しい面があります。磐田市としてはコンポストの普及を目指しているので、ご理解をお願いします。

〈委員〉　現計画では、実績が目標の数値とかけ離れているものもありますが、どう考えていますか。

〈事務局〉　今年度改正する新たな基本計画で、次の 10 年間で達成できるように新しい目標を設定して取り組んでいきたいと考えています。

〈委員〉　平成 29 年と令和２年の家庭から出る可燃ごみの内訳を比べると草木が平成 29 年の 4.2%に対して、令和２年 19.6%とかなり増えています。また、平成 29 年のその他の割合もかなり多いですが、ここでいうその他には何が含まれるのですか。

〈事務局〉　平成 29 年のその他には、令和２年でいうところのその他プラスチックが含まれています。草木については、無作為に抽出しているので、地域性等も影響していると考えられます。

〈委員〉　食品ロスのパンフレットやｉプラザにあるフードバンクの食品回収ボックス、簡単な展示コーナー等、地域住民が訪れる交流センターでも実施してもらいたいと思います。

〈事務局〉　食品ロスのパンフレットは、是非交流センターに置きたＰＲしていきたいと思います。ｉプラザにあるフードバンクの食品回収ボックスは、担当課が福祉課、社会福祉協議会になります。ｉプラザ以外にも広く設置していきたいとのことで、８月と１月に各支所とクリーンセンターに置くことになりました。

〈委員〉　民間の資源物回収拠点における状況として、ペットボトルの排出

量が、６月から９月は、冬の２、３倍あると思われます。月１回の回収を、例えば夏だけ月２回にするなど、収集回数を増やしていただきたいと思います。公共的な回収回数が増えればそれだけ皆さん、心豊かになると思うので、柔軟な対応をお願いします。

〈事務局〉　ペットボトルについては、マイボトルの推奨等で、まずはごみにならないような取組みを進めたいと思います。磐田市はペットボトルの回収は月１回ですが、お困りの方のために、毎週日曜日にリサイクルステーションを各地域で開催しています。ご意見として、参考にさせていただきます。

〈委員〉　磐田市の取組みとして、３Ｒ推進月間とありますが、県では６Ｒを進めています。６Ｒに進めない理由を教えて下さい。

〈事務局〉　循環型社会を目指しごみの減量に取り組むという視点で、現計画では市民に分かりやすい３Ｒという形で啓発をしています。その取組みの中で、６Ｒでいうリフューズであるレジ袋の削減やリターンである回収コンテナの利用、リカバーである環境美化活動等の実施を考えています。今後の取組みについては、皆さんからご意見、ご提案を踏まえて検討していきます。

〈委員〉　最終処分場のあり方の検討についてですが、今後民間委託による資源化をする場合、費用が高くつくと思います。その辺の見込みはどのくらいを考えているか、お伺いします。また、民間委託の資源化を実施している自治体の取組み状況や経過について説明していただきたいと思います。

〈事務局〉　最終処分については、なるべく埋め立てるものを減らし、究極的にはゼロにしたいと考えており、灰の資源化について、進めていきたいと考えています。また、埋め立てごみのガラスや陶磁器の資源化を試験的に始めています。進んだ自治体として、志太広域事務組合がありますが、来月、中遠広域事務組合、構成３市町で視察に行く予定です。ごみは、埋めるのではなくて資源化できるものは資源化するという観点から色々なことを研究しながら進めていきます。

〈委員〉　資源化率、処理経費の見通しがわかれば、教えて下さい。資源化

することにより収入になるということもありますか。

〈事務局〉　例えば現在試験的に回収している金属ごみは、収益になります。一方、ガラスや陶磁器は、コストがかかりますが、最終処分場を造る場合と比較すると、安価にできる見立てです。貴重な税金を使うので、しっかりコストを考え、研究しながら、資源化していきたいと考えています。

〈会長〉　ただ捨てればいいという訳ではなく、再利用を考えていかなければいけないと感じます。
　貴重なご意見、提案ありがとうございました。

（５）その他報告事項

≪（５）を事務局より説明≫

〈会長〉　本日の議案審議は全て、これで終了しました。

〈事務局〉　以上を持ちまして、令和３年度第１回審議会を終了いたします。本日はありがとうございました。

５　閉会